
東北大学陸上競技部

OB通信

2012年 No.5
(2012.11)

国公立 22 大学対校 陸上競技大会

- ・柳沢邦彦(4)が男子円盤投で4連覇、優秀選手に選出

天皇賜杯第 81 回日本学生陸上競技対抗選手権大会

- ・山田健太郎(2)、柳沢邦彦(4)、杉本和志(M1)がそれぞれ男子走高跳、男子円盤投、男子やり投に出場
- ・及川まりや(4)、鈴木絢子(2)がそれぞれ女子 5000m、女子 10000m に出場に出場

フランスレンヌ市で開催された「全レンヌを走る日」に鈴木絢子(2)が参加

第 30 回全日本女子大学駅伝対校選手権大会

- ・及川まりや(4)、鈴木絢子(2)、宮間志帆(1)が東北学連選抜チームとして快走！それぞれ1区及川18位、3区鈴木17位、4区宮間16位の大健闘！

第 67 回宮城県駅伝で東北大学 A チームが初優勝！！

・秋季三秀総会日程のお知らせ

- | | |
|----------------------------|--------|
| ・国公立 22 大学対抗陸上競技大会ページ | 2 ページ |
| ・第 41 回東北学生陸上競技選手権大会 | 10 ページ |
| ・OB 対現役対抗戦 | 12 ページ |
| ・天皇賜杯第 80 回日本学生陸上競技対校選手権大会 | 19 ページ |
| ・「全レンヌを走る日」 | 21 ページ |
| ・第 30 回全日本女子大学駅伝対校選手権大会 | 21 ページ |
| ・第 30 回全日本女子大学駅伝対校選手権大会 | 23 ページ |
| ・秋季三秀総会のお知らせ | 24 ページ |
| ・自己記録更新者一覧 | 24 ページ |
| ・今後の予定 | 24 ページ |
| ・編集後記 | 24 ページ |

向冬の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、主に第 27 回国公立二十二大学対抗陸上競技大会の結果をお伝えします。

★国公立 22 大学対抗陸上競技大会(8/28-8/30) 於 仙台市陸上競技場

我が東北大学主催のもと行われました。男子 1500m では三上(3)が 3 位入賞、男子円盤投では柳澤(4)が 4 連覇を達成しました。

◎トラック

男子 100m 予選

3 組 2 着 南共哉(3) 11'41(-1.5)

南はスタート練習の時点で軽快な動きをみせたが、洗練された彼のスタートは隣の選手のフライングによって邪魔されてしまう。しかし動揺することなく、1.5m の向かい風の中でもいつもの力みのない軽やかな走りで 2 位争いを繰り広げる。

7 組 4 着 竹原大(1) 11'99(-2.9)

スタートの反応は他者と比べるとあまり良くなかった。前半じわじわ引き離されるが、自分の走りを書いて流れにのる。しかし後半は強い向かい風の影響もあってか上半身のブレが目立ち、挽回はできなかった。

男子 100m 準決勝

1 組 8 着 南共哉 11'62(-0.9)

スタート直後は隣の選手に先行するが、この 3 日間での疲労のためか、いつもの伸びがみられず、中盤でかわされてしまい、最後はきれいな V 字型でのフィニッシュとなってしまった。

女子 100m 予選

1 組 8 着 後藤文子(1) 14'64(-0.3)

スタート練習から 1 歩目が遅く感じられていたが、やはりスタートから引き離されてしまった。後半はテンポも間延びしてしまっていた。まだ 1 年生なので今後の活躍に期待したい。

3 組 5 着 中山なつみ(3) 13'43(-1.5)

なぜかスタートにつく前にスタブロにつまづいてしまう中山。苦手とするスタートを克服しつつあったが、今回のレースではスタート直後に上体が起きてしまい、うまくいかなかった。しかし中間、後半とうま

くりリラックスした伸びのある走りをみせ、スタートミスを見事に走力でカバーした。

男子 200M 予選

4 組 2 着 千葉優人(2) 22'67(-0.4)

短長を専門とする 2 年生 2 人が挑戦。千葉は前半から上体を起こして大きいストライドで進んでいた。前半は周りとは比べるとピッチが遅いように感じたが、後半はそのストライドと体力を活かしてトップを追い詰めた。

5 組 4 着 畑岡進(2) 23'41(-1.2)

畑岡は終始良い姿勢で走り抜けた。やはりラスト 50M からが本領発揮という感じで、まだまだ 200M では走り足りないと思わせるフィニッシュであった。

男子 200M 準決勝

1 組 6 着 千葉優人(2) 22'56(+0.8)

千葉は大きな動きできれいなスタートを切ったが、コーナーの終盤から前走者との差がひらき始め、ラストは、彼の強みであるストライドが小さくみえた。ラストで粘ったものの、6 着であった。

女子 200M 予選

4 組 2 着 中山なつみ(2) 26'47(-1.4)

中山は苦手なスタートをうまく決めてみせ、きれいなフォームでカーブを抜けた。その後はラストまで 1 位の選手との差を保ち、そのまま 2 着でフィニッシュ。

男子 400m 予選

3 組 3 着 杉浦弘樹(2) 51'21

杉浦は滑らかなスタートをみせバックストレートまで順調にストライドを伸ばすが、ホームストレートでは疲労のためか上半身がやや後傾してしまい、巻き返すことができないままフィニッシュ。

5組2着 南共哉(3) 51'02

南は前半から落ち着いた走りを見せ、コーナーに入ってからそのペースを落とすことなく、最後まで安定した走りで駆け抜け、準決勝進出を決めた。

男子 400m 準決勝

3組5着 南共哉(3) 50'02

スタートから勢いよく飛び出し、前半から果敢に攻めの走りを見せたが、コーナーでスピードに乗り遅れ、前半の走りを活かすことができなかった。ラストの走りも、いつもの美しいフォームが乱れてしまった。

女子 400m 予選

2組6着 下島千歩(3) 64'49

スタートはいつものスタートと比べるとやや失敗した様子であった。バックストレートでは持ち直して良い走りを見せたが、コーナー以降は走りが振るわなかった。ホームストレートでは疲労が顕著にみえた。

男子 800M 予選

1組5着 竹原大(1) 02'01"88

竹原は前半から積極的な走りをし、200Mを27秒、400Mを57秒で通過。しかし、1周目のペースを保てず、2周目は苦しい走りになった。1周目は1位だったが、ゴールは5着。

2組5着 三上和樹(3) 02'00"40

三上は序盤から先頭で走り、一周目の通過は58秒。500Mで先頭を奪われるも、落ち着いて対応し、しっかりと先頭集団につく。最後まで余力を残してゴールした。

男子 800M 準決勝

1組3着 三上和樹(3) 1'58"79

序盤は8人の大集団が形成され、三上はその4番手につけ400Mを60秒で通過した。500Mを過ぎたあたりから集団のペースが上がっていき、一時6番手に後退するも、ラスト200Mからスパートをかけ残り50Mで2人をかわし3位でフィニッシュ。

女子 800M 予選

1組6着 小高真依(4) 02'49"33

前半から集団の後方でレースを展開。

400Mは1'18"。懸命に走るも前走者には及ばなかった。

3組5着 井出桃愛(1) 02'39"65

始めからバラけた集団でのレース展開。井出はその後方で走り、1周目は1'14"。2周目も位置は変わらず、結局ゴールまで位置に変動がなかった。

男子 1500m 予選

1組3着 三上和樹(3) 4'09"42

序盤は先頭集団の中程につけ400Mを69秒で通過。その後、次の400Mを68秒で通過し、1000Mを過ぎたあたりからペースアップし、ラスト200Mでは3位につけ、最後は流したのか徐々にペースを落として3位でゴールした。

2組5着 辻川優祐(4) 04'06"67

400Mを66秒で通過し大集団の中程でレースを展開。800Mも2'14で通過したあたりから集団がバラけて辻川は先頭についていく。ラスト一周の鐘が鳴っても7名ほどの集団は崩れず、ラストスパートするも5位でフィニッシュ。タイムは自己ベストの4'06"67だった。

3組16着 高橋慧伍(1) 04'30"42

400Mを71秒で通過し集団の後方につける。800Mは2'19で通過し、2位集団を引っ張る。1200Mは3'34(73")で通過し、ラストは1人にかわされて4'30"42でフィニッシュした。

男子 1500M 決勝

3着 三上和樹(3) 04'01"52

12着 辻川優祐(4) 04'20"48

三上は先頭集団で400Mを61秒で通過。辻川は中盤につけて63秒での通過。三上はそのままの位置をキープして800Mを2'07"で通過。辻川は少し遅れて後方に下がり2'10"での通過。その後三上は2位にあがり1200Mを3'14"で通過。辻川はさらに遅れて3'24"で通過。三上は3位に落ちたもののそのまま順位を維持し04'01"52でゴール。辻川は04'20"48でゴールした。

女子 1500M 予選

2組2着 宮間志帆(1) 04'54"98

宮間は序盤 400M を 76 秒で通過し、3番手につける。そのまま縦長の集団の3番手をキープしながら、2'36(80")で通過。そして5名の先頭集団が形成されそのままラスト一周の鐘が鳴る。1200M は 3'57(80")で通過し、この時点でも3位をキープ。ラスト 100M でスパートをかけて一人抜き去り2位でフィニッシュ。

女子 1500M 決勝

7着 宮間志帆(1) 04'49"80

終盤までほぼひとつの集団にかたまるレース展開。宮間はその中のやや前方につけ、400M を 1'18"、800M を 2'38"、1200M を 3'56"で通過。1200M の地点で前に飛び出し3位に上がったが、スパートをうまくかけられずに抜かれてしまい、7位でゴール。

男子 5000m 決勝

1組23着 碓井将也(1) 17'10"75

1組目は碓井が出場。碓井は序盤から先頭集団について行き 1000m を 3'10 で通過。先頭集団はそのままのペースでレースを進めるが、碓井はついて行けずに徐々にペースが落ち始める。そのままずるずると先頭から離され、17'10"75 でフィニッシュ。まだ1年生なので今後に期待したい。

2組20着 藤澤萌人(3) 16'11"46

2組27着 石代剛之(4) 17'16"65

2組目は石代と藤沢が出場。先頭集団は誰も前に出ようとせずスローペースで始まる。2人とも3分1ケタ後半で 1000m を通過。徐々に先頭のペースが上がっていき、2人とも先頭集団から離される。藤沢は 3000m まで自分のペースで走るが、石代は徐々に落ち始める。4000m 地点で藤沢もペースが落ちてしまうが、最後まで粘り 16'11"46 でフィニッシュ。石代はラスト 2000 粘り切れず不本意な結果で終わってしまう。

女子 5000m 決勝

4着 宮間志帆(1) 18'00"01

序盤は4人による先頭集団の中で走るも、

徐々に遅れ、先頭集団から離されてしまう。しかし、焦ることなく自分のペースを維持してフィニッシュ。最後、間違えて1周多く走ってしまうというアクシデントがあり、スパートをかけられずに残念である。

男子 10000M 決勝

1組3着 田辺明(3) 34'31"05

1組13着 西井大樹(2) 36'39"92

田辺は縦長の1位集団の後方からスタート、西井はほぼ最後尾からのスタートとなった。1000M 通過後はきれいに集団に分かれ、田辺は中間の集団につき、西井は最後の集団を引っ張る。3000M 通過あたりからペースの落ちてきた先頭集団の走者を田辺が抜き、3位にあがる。西井は集団がばらけ始めて苦しい展開。5000M は田辺が 16'50"、西井が 18'00"。両者ともにややペースダウンし始めるが、西井もペースが落ちてきた他走者を着々と抜いている。7000M 通過時、田辺が4位に落ちるが前走者の後ろにつけて2位を追う。その後田辺は懸命に前を追い続け、ラスト1周で一人を抜いて3位でゴール。西井も後方で粘ってゴールした。

2組4着 斎藤寛峻(3) 33'39"92

斎藤は集団から少し離れた後方からスタート。はじめの 1000M は 3'17"で通過。3000M 通過時に前の集団から落ちてきた走者を抜いていく。ここまでの 1000M 通過のタイム誤差を一秒以内に収めるイーブンな走り。その後もペースダウンする走者を着々と抜いていく。5000M 通過は 16'37"。斎藤には珍しく少しペースが落ちてきた。7000M 通過時からバラけ始めた4位集団を捉え始める。残り 2000M からペースを上げ始め4位まで上がる。ラスト 1000M は 3'05"まであげ、33'39"92 でゴール。4位であった。

男子 110mH 予選

2組2着 岩崎辰哉(M2) 15'40(-0.8)

岩崎は1台目のハードルからトップでクリアし、7台目までキープするも、後半で

4レーンの選手のピッチが上がりゴールは2位。ペース自体は最後までほとんど変わらず、抜かれたことによる焦りもなく、終始安定したレースをしていた。

5組4着 向出周太(3) 15'86(+1.5)

向出も悪くないスタートをみせた。このレースでは、他選手と程よく差が出来ていたため、焦ることなく自分のハードリングできたのではないだろうか。後半も失速せずペースを維持できていた。

男子 110mH 準決勝

1組4着 岩崎辰哉(M2) 15'26(-0.2)

岩崎はスタート前から落ち着いてレースに集中している様子を見せた。スタートから三台目まで選手は横一線に並んで、熾烈な順位争いとなった。岩崎は激しい3位争いを繰り広げた。

2組8着 向出周太(3) 15'95(+0.4)

向出は一台目のアプローチでわずかに遅れをとった。ハードルを超えるごとに差が広がっていくレース展開となり、後半は体が浮いてリズムが落ちてしまった。しかし、抜き足の動きが以前よりも良くなってきており、今後の成長に期待大。

男子 110mH 決勝

7着 岩崎辰哉(M2) 15'42(-0.7)

岩崎はスタートから勢いよく飛び出し、ハードルを次々と越えていく。4台目あたりから他者との差がひらき始め、後半は疲労のためかブレが目立った。しかし、見事に決勝まで勝ち残り走りきって、ハードルパートの存在感を見せつけた。

男子 400mH 予選

1組1着 千葉優人(2) 55"83

練習のアプローチではラストが間延びしているように見えたが、本番では一台目をうまく合わせた。軸の安定した走り、ハードルを越える際の姿勢にもキレがあり、8台目まで15歩の歩数をキープ。9台目で16歩になってしまい最後のハードルは飛び跳ねるようにハードルを越えてしまった。しかしそれでも見事に決勝へと駒を進めた。

3組4着 増田俊太郎(1) 59"09

一年生の増田は今年度のレース経験は浅いが、なかなか良いスタートをみせ、スムーズに加速していった。レース前、「15歩はきつい」と自分では言っていたものの、6台目まで15歩で攻めの走りをする。7台目以降は歩数が変わってしまったが、逆足でも非常にスムーズなハードリングで歩数が変わったことが分からないほどであった。来年以降の活躍が期待される。

男子 400mH 決勝

5着 千葉優人(2) 55"52

スタートから果敢に攻めのレースを展開するが、3台目でインレーンの選手に並ばれてしまう。予選では前傾姿勢を保っていたのだが、決勝のレースではやや上体がそってしまった。10台目のハードルを7位で越えたが、ラストで粘り5位を勝ち取った。

女子 400mH 予選

2組5着 下島千歩(3) 71"95

下島は豪快な腕振り力で力強いスタートをきるが、1台目へのアプローチで既に遅れをとってしまい、歩数も合わなかった。2台目以降は足を合わせ、徐々にペースを取り戻すも、後半7台目でまた足が大きく合わず、差を詰めることはできなかった。

男子 3000mSC 決勝

24着 南雲信之介(1) 10'16"92

集団の真ん中からレースを始めたが、そこから順位を上げることができず、徐々にペースが落ちていく苦しい走りとなった。1周目は3'15"、2周目は3'26"、3周目は3'35"。イーブンペースで走ることが今後の課題となりそうだ。

男子 4×100mR 予選

2組3着 43"49

竹原(1)-向出(3)-畑岡(2)-千葉(2)

1走竹原はリラックスしたスタートをみせたが、うまくスピードに乗り切れず、バトンパスに苦戦。2走向出はそのバトンミスの影響か減速してしまい、焦りのためかフォームにもバラつきがみられた。3走畑

岡は力みつつも安定した走りをみせ、4走千葉へ。4走千葉は前傾姿勢で駆け抜けたが、脚があまり上がっていなかったように見受けられた。全体的に気持ちが先行してしまったレースとなった。

男子 4×400mR 予選

1組 4着 3'20"64

畑岡(2)-千葉(2)-菅原(1)-南(3)

1走畑岡は序盤から攻めの走りで終始前傾姿勢をキープ。100M 通過地点で早くも内側レーンの走者を引き離していたが、200M~300M にかけて少しずつ差を縮められた。ラストの直線でストライドと前傾を維持し、疲労を感じさせない力強い走りでバトンをきれいに千葉へとつないだ。

2走の千葉はオープンレーンから 200M 地点にかけて素晴らしい走りをみせ、うまく前の走者をかわして3位につける。200M~300M にかけて何人かに抜かれるも、ラストの直線で抜かれた走者を抜き返し、3位でバトンを菅原につなぐ。

3走菅原は得意の先行逃げ切り走行。スタートから 250M まで素早いピッチで快調なペースで飛ばす。後半は疲れが見え、ペースが落ちたが、彼はまだ一年生であり、今後の成長が期待される走りであった。この時点で順位は6位。

4走南がバトンを受け取ったとき、1~7位までは2m ほどの等間隔で並んでいた。南は前半、前走者についていくような安定した走りを保っていたが、後半に入って怒濤のラッシュが始まった。ラストの直線に入った時点で5位だったが、いつも冷静な走りをみせる南にしては珍しく頭を振るような仕草も見られ、いつになく燃えた走りであった。必死で順位を追い上げ、4位でフィニッシュ。辛くも決勝へ駒を進めた。

男子 4×400mR 決勝

8着 3'28"08

畑岡(2)-杉浦(2)-千葉(2)-南(3)

1走畑岡は前半から良いペースで飛ばした。200~300m にかけて徐々に詰められる

が、ラストは腕振りとストライドで必死に身体を前にもっていった。集団の後方につける形で2走杉浦へとバトンを渡す。

2走杉浦は序盤リラックスした大きな走りで攻める。バックストレートでうまく集団に固まっていった。コーナーも華麗に走り抜け、前走者の群馬大学を一気に抜き去ってそのまま3走千葉へとバトンをつなぐ。

3走千葉は 400mH を二本終えてのレースであり疲労が懸念されたが、150m まで普段のペースには劣るものの必死にフォームを維持して走った。しかし、途中で脚をつり、通常の走りができず、片足で走るような形となってしまった。レース中断かとも思われたが、渾身の力を振り絞って最後まで走りきり、アンカー南にバトンを託す。

南がバトンをもらった時点で、かなり差をつけられていたが、南は落ち着いた様子で安定した走りをみせる。前走者が追える位置にいないこともあり、序盤からオープンペースでの走りを意識しているようで、前との差をそのまま保ち、8位でゴール。

◎フィールド

男子 走高跳

5位 山田健太郎(2) 1m95

全カレ出場が決まっている山田は 1m90 からの挑戦。勢いのある助走で身体が突っ込んでしまったが、意地をみせ一回目で何とかクリア。続く 1m95 の1本目は、助走スピードを更に上げてきたが、踏み切りでうまくまとめられず、失敗。2本目は1本目の失敗を受けてか、身体を起こしてスピードを抑えた助走。しかしこれもうまく跳躍に繋がれず、バーを落とした。3本目は力みからかまたも助走スピードが上がりすぎ、踏み切りができず失敗。助走と跳躍がうまくはまらずもったいなかった。

7位 岡部大輝(2) 1m80

岡部は 1m80 からの挑戦。1本目は助走の動きが固く、バーに対して直線的に入りすぎ、バーに突っ込む形となった。2本目

は走り出しから急にテンポを変えての助走となり、うまく踏み切れず失敗。助走がうまく安定しない様子。3本目はかなり助走を抑え、ほとんど最後の踏み切りのみでなんとか飛び越えた。続く1m85は、勢いの良い助走だったが踏み切り位置が詰まり気味だった。あまり良い踏み切りではなかったが自身のバネを利用して見事一回でクリア。1m90の1本目は、バーに対して直線的に入りすぎてしまい、身体ごと突っ込んだ。2本目は身体が後傾できておらず、しっかり踏み切れない跳躍で失敗。3本目は助走に力が入ってしまい、踏み切れずに終わった。バネがあるだけに助走を活かした跳躍が必要となりそうだ。

女子 走高跳

安部瑛里奈(2) 1m50

安部は1m50からの挑戦。これは1本目で難なくクリア。続く1m53の1本目は、ハムストリングの辺りがバーに当たり、惜しくも失敗。2本目は、足が合わなかったようで、踏み切りにいたらなかった。3本目は、越えたいという気持ちがこもったか、助走を途中から上げすぎてしまったようで、身体が流れてしまい、失敗に終わった。

男子 走幅跳

田中悠貴(3) 6m20

1本目の跳躍は10cmほどファール。助走でのピッチアップがもっと出来るはずだが、大きく跳べたため悔やまれるファールとなった。2本目は踏み切り板の中程を踏んでの踏み切り。前半の歩幅が短かったため、5歩前くらいから大股になってしまい、ラストを刻めなかった。記録は6m20。3本目は70cm近くも前からの踏み切りとなった。足を合わせきれず、記録は5m84。

安井令(4) 6m66

1本目は15cmほどファール。助走はかなり足が詰まっていたが、きちんとスピードにのっていた。2本目は調整したが5cmほどファール。大きく跳べたのもったいない跳躍となった。3本目は記録を残

すため、足合わせに集中した跳躍となった。助走の思い切りには欠けたが、板の真ん中を踏んで6m66の記録を残した。

大村祐大(M2) 6m44

大村は、一本目はラストの一步が間延びしてしまい、踏切音が大きく感じられた。記録は6m44。2本目は、15cmほどファール。助走も、もう少しテンポアップが欲しいところであった。3本目は、調整するも10cmほどファール。1本目同様、ラストの1歩が間延びしてしまった。追い風が非常に強かったことも原因かもしれない。1本目の記録しか残せず悔しい結果となった。

女子 走幅跳

後藤文子(1) 4m60

最初の跳躍は思い切りのよい助走をうまく活かし、非常に良い流れで踏み切ったが、30cmほど前での踏み切りとなってしまった。記録は4m55。踏み切りさえ合えば好記録がでただけにもったいなかったが、一走目で記録を残せたことで余裕が生まれたと思われる。二回目の跳躍は反対に5~10cmファールとなった。ピッチアップのうまい助走だったのでもったいなかった。三回目の跳躍では、見事に足を合わせてきたが、逆に助走は一、二回目のほうがうまく走れていた。足を合わせることに重点を置いたためか踏み切りが詰まってしまう、後傾できていなかった。記録は4m60。助走と踏み切り位置がうまく噛み合っていれば、もっと良い記録が狙えたであろう。

金子奈緒(2) 4m82

金子は、一本目から踏み切りはぴったり。助走もうまくスピードに乗れており、自身大学ベストの記録となる4m82を残した。二本目は、わずかに5cmほどファール。一本目のような最後っぼさが欲しいと感じた。三本目の跳躍でも踏み切りはぴったりだったが、身体が高く浮きすぎてしまい、動作が空中分解したようであった。それでも記録は4m80。全体的に踏み切りの位置が安定しており、記録も伸びてきているので、

来年は 5m 台も十分に狙えるだろう。

中山なつみ(3) 4m90

中山は一本目から三本目まで、全ての跳躍が 20cm ほど前での踏み切りだった。一本目は足合わせのためか、踏み切り前での減速がみられ、持ち前の瞬足を生かしきれず記録は 4m72。二本目は一本目よりも流れの良い跳躍で、記録は 4m90。三本目はやはり足を合わせたかったのか、ラストの一步で大幅に減速してしまい、記録は 4m70。踏み切りがぴったりであれば 5m 以上は確実なだけにもったいないと感じた。

男子三段跳

岡部大輝(2) 13m17(+2.0)

1 本目の跳躍は、彼にしては珍しく助走が速かった。そのせいか、跳躍が総じて潰れていた。踏み切り位置は合ったものの、記録は 12m95。2 本目は、助走の走りで腰が落ちていて、重そうに感じた。踏み切りは板に 5cm ほど乗る形だった。それでも記録を伸ばし 13m10。3 本目もやはり助走が重そうだった。踏み切りは意識して合わせたようでぴったりで、記録は 13m17。助走と着地の練習が今後の課題となりそうだ。

田中悠貴(3) 13m38(+1.8)

田中は 1 本目からうまく足を合わせてぴったりの踏み切りだったが、走り出しが安定しないようでラスト 5 歩が間延びした。記録は 13m38。続く 2 本目は途中までは良い形で助走をしていたが、足合わせのためかラストでスピードを緩めてしまった。踏み切り位置は板の真ん中で、記録は 12m78。3 本目も助走が安定せず、最後の 1 歩で大きく間延びしてしまった。板を 5cm 踏んで踏み切ったが、残念ながら着地することができず、記録は残せなかった。課題は助走。ピッチアップがうまくできるようになれば、さらに良い記録がでるだろう。

男子 棒高跳

6 位 佐藤裕貴(3) 4m10

佐藤は 3m90 からの挑戦。これは一回目で余裕をもってクリア。続く 4m10 の 1 本

目は、助走のラストがうまく走れず、流れてしまい失敗。2 本目の助走は 1 本目に比べ改善されていたが、跳躍に高さがでず、惜しくもバーを落としてしまった。3 本目は速い助走で、若干身体が流れたが、うまく頂点がバーに合い見事にクリアした。次に挑戦する高さは、4m30。1 本目は助走とポールのタイミングが合わなかったのか、そのまま走り抜けてしまった。2 本目はスピードに乗った助走からうまくポールに身体を乗せて、高さのある跳躍となったが、残念ながら頂点が合わずにバーにぶつかってしまった。3 本目は助走で力んだためか、完全に流れてしまった。4m30 を越えられるだけの高さは出せているだけにもったいなかった。

白井孝明(D1) NM

ベテラン白井は 4m50 からの挑戦。1 本目は軽快な助走をうまくポールにつなげたが、身体が思うように浮かずに流れ、バーにぶつかってしまった。2 本目も助走から跳躍への流れはきれいに決まり、越えられるだけの高さも出ていたが、頂点がバーと合わず失敗。3 本目は、力強い助走だったがうまく上方向に力を活かせず、身体が完全に流れてしまい、失敗。残念ながら記録を残すことはできなかった。

◎投擲

男子砲丸投

石川遼(2) 9m33

石川の 1 投目は、平凡な投擲ではあったが、前回より記録を伸ばして 8M85。続く 2 投目は身体の開きが早く、いまひとつの印象を受けたが、記録は伸ばし 9M04。3 投目もやはり身体が早く開いてしまったが記録は 9M33 と伸ばした。

酒井利晃(2) 9m35

酒井の 1 投目は練習時よりも気合を感じる投擲であったが、身体が流れてしまった。2 投目はスピード感があり、流れの良い投擲だった。しかし記録は 9M35 と思うほど伸びなかった。3 投目は、動き、スピード

ともに良かったのだが、連動感に欠けてしまい、ファールとなった。

女子砲丸投

安部瑛里奈(2) 7m30

今年から投擲種目も本格的に始めた安部。

1投目は8mを超える飛距離だったが、踏ん張りきれずサークルから身体がでてしまった。2投目は1投目に比べうまく身体の重心移動がしきれなかった。3投目は身体がぐらついてしまい、グライドの勢いもあまりでていなかった。

男子円盤投げ

7位 石川遼(2) 34m58

1投目はうまく円盤に力が伝わらなかった様子でファール。2投目は、ターンで上に跳んだように見え、流れが悪かった。3投目は、円盤の弾道が低く、ファールとなってしまったが、2投目の記録でベスト8を決める。4投目は投擲の際の上方向の角度が定まらない様子で、安定した投擲ができていない。5投目は、投げる直前にせっかくの勢いを逃がしてしまっていた。最後の6投目は、疲れがでたのか円盤が抜けてしまいファールとなった。

優勝 柳澤邦彦(4) 43m93

全カレを控え、二十二大戦においては4連覇のかかる柳澤。一投目はそつなく投げたが、アップ不足であるためかいまひとつ飛距離が伸びなかった。2投目で調子をつかんできた様子、45Mを超える投擲をみせる。3投目も気合のこもった投擲だった。4投目は、少し弾道が上がってしまった。5投目は、リリースの動作が早すぎるのではと感じた。6投目は、ターンで力みすぎ、リリースが崩れてファールとなった。

男子ハンマー投げ

酒井利晃(2) 24m34

1投目は力あふれる投擲をみせた。2投目は、軸がぶれていたというよりは、まだ軸が出来上がっていないようでファール。3投目は2投目と同じようなターンに終わってしまった。

田附遼太(4) 26m40

1投目は、軸が右にずれてしまっていた。2投目も軸がぶれてしまい、ハンマーが横にずれていってファールとなった。3投目はターンが遅いように感じられた。

男子やり投

中道和貴(3) 41m44

1投目は力強く投げ、40mラインを超えたが、惜しくも足がでてしまいファールとなった。2投目は、やや慎重すぎる投擲。1投目のような力強さがほしいところ。3投目は流れのよい投擲だったが、クロスのリズムが合わなかったようだ。

7位 伊藤泰彬(2) 56m03

1投目は少し身体が流れてしまったもののうまくまとめた。2投目はやりの軌道が高くなってしまい、3投目は反対にやりの軌道が低く、身体がむちになっていない。ベスト8に残り、続く4投目。ブロックの力がやりに伝わっておらず、やりの軌道の低さが気になる投擲。5投目は、クロスが潰れてしまっており、やりが手からすっぽ抜けるような形になってしまった。最後の6投目はブロックが潰れ、身体が突っ込みすぎて乱れた投擲となってしまった。結果的に6投中5投がファールということになってしまった。

3位 杉本和志(M1) 59m65

全カレを控える杉本は、一投目はリズムが合わないながらも力強く投擲した。2投目、3投目はうまく力を伝えられない。ベスト8に残り、4投目は全体的にリズムの良い投擲で、槍にうまく力が伝わっている様子だった。5投目もうまく槍に力をのせていたが、弾道が低くなってしまい、60Mには至らず58M28。最後の投擲は、流れもうまく先ほどより高さのある投擲で、槍を力強く飛ばした。記録は59M65。試合後「コツをつかめた」と本人は語っていたので、全カレではベストを更新できるよう頑張ってもらいたい。

★第41回東北学生陸上競技選手権大会 於仙台市(9/28-9/30)

今年も多数の部員が参加しました。男子400mでは高林(M1)、男子円盤投では柳澤(4)、女子5000mでは鈴木(2)が優勝するなど、多くの部員が入賞しました。結果の一部を紹介します。

種目	組	順位	氏名(学年)	記録
男子400m 決勝	—	優勝	高林佑輔(M1)	49"01
		4位	南共哉(3)	49"62
男子800m 決勝	—	6着	三上和樹(3)	01'58"96
		7着	竹原大(1)	02'00"98
男子1500m 決勝	—	2位	菅野均(4)	04'03"32
		4位	三上和樹(3)	04'10"04
男子5000m 決勝	1組	6着	進藤克哉(1)	16'53"37
		13着	大野慎也(1)	17'24"63
		14着	株和教(1)	17'39"22
		17着	安食雄太郎(1)	18'13"29
	2組	4着	森部峻介(4)	16'11"62
		5着	南雲信之助(1)	16'17"02
		7着	山根由経(3)	16'19"72
		10着	佐藤泰介(2)	16'32"47
		13着	工藤佑馬(M1)	16'43"18
		16着	辻川優祐(4)	17'01"66
		17着	植木達矢(3)	17'25"98
	3組	4着	深渡慎一郎(3)	15'09"21
		5着	尾形翔平(4)	15'17"91
		6着	菅野均(4)	15'30"62
		10着	高橋佳希(1)	15'48"44
		11着	石代剛之(4)	15'58"52
		14着	山本悠平(3)	16'31"78
		15着	木村慎太郎(4)	16'41"41
		16着	田辺明(3)	16'43"19
男子10000m 決勝	1組	4着	深渡慎一郎(3)	31'44"69
		5着	高橋佳希(1)	31'50"87
		7着	尾形翔平(4)	32'15"83
		13着	山本悠平(3)	33'51"91
		14着	碓井将也(1)	33'52"24
		17着	佐藤泰介(2)	34'27"79
		18着	南敦(4)	35'11"63
		19着	植木達矢(3)	35'35"74
		20着	西井大樹(2)	34'55"79
		21着	宝田拓馬(3)	37'07"78

男子 110mH 決勝	—	4 位	岩崎辰哉(M2)	15"13
男子 3000mSC 決勝	—	2 着	深渡慎一郎(3)	09'35"13
		8 着	南雲信之介(1)	10'06"16
男子 10000mW 決勝	—	3 着	角川拓也(3)	53'41"28
男子 4×400mR 決勝	—	4 位	高林(M1)-杉浦(2)-千葉(2)-南(3)	3'16"23
女子 200m 決勝	—	7 位	中山なつみ(3)	26"56(-1.6)
女子 5000m 決勝	1 組	5 着	榊原真璃子(1)	20'30"30
		2 組	1 着	鈴木絢子(2)
	2 組	3 着	及川まりや(4)	17'07"85
		6 着	宮間志帆(1)	17'33"01
		13 着	村松 純(3)	18'03"24
女子 4×100mR 決勝	—	5 位	後藤(1)-中山(3)-金子(2)-下島(3)	52"18
女子 4×400mR 決勝	—	7 位	下島(3)-金子(2)-後藤(1)-中山(3)	4'15"55
男子棒高跳び	—	3 位	白井孝明(D1)	4m60
男子三段跳び	—	7 位	佐藤裕貴(3)	4m00
		6 位	田中悠貴(3)	13m64
男子走高跳び	—	8 位	岩崎辰哉(M2)	6m58
		3 位	山田健太郎(2)	1m94
男子走高跳び	—	7 位	岡部大輝(2)	1m85
		2 位	岡部大輝(2)	7m16
男子走幅跳び	—	8 位	岩崎辰哉(M2)	6m58
		5 位	安部瑛里奈(2)	1m50
女子走高跳び	—	8 位	中山なつみ(3)	4m77
女子走幅跳び	—	7 位	安部瑛里奈(2)	20m39
女子円盤投げ	—	7 位	安部瑛里奈(2)	7m83
男子円盤投げ	—	優勝	柳澤邦彦(4)	44m52
		8 位	石川 遼(2)	34m38
男子やり投げ	—	2 位	杉本和志(M1)	56m82
男子ハンマー投げ	—	8 位	田附遼太(4)	31m06
十種競技	—	3 位	藤井 翼(4)	5626 点

★OB 対現役対抗戦(10/6) 於 評定河原競技場

今年も多くの OB の方々に参加していただきました。結果を紹介します。

・トラックの部

名前	学年	100m	得点	400m	得点	1500m	得点	最高得点
藤井 翼	4	11.49	755			5.17.91	461	755
岡部 大輝	2	11.55	742	55.66	573	5.40.84	348	742
安井 令	4	11.54	744					744
山田 健太郎	2	11.84	683	70.33	131			683
柳澤 邦彦	4	12.71	518	59.55	429	5.36.56	368	518
佐藤 裕貴	3	11.69	713	60.53	395			713
伊藤 亮輔	4	11.43	767					767
岩崎 辰哉	M2	12.16	620					620
向出 周太	3	11.50	753			5.20.7	447	753
千葉 優人	2	11.56	740	51.85	731	4.48.53	628	740
鈴木 義教	H19 卒			52.89	686	4.49.45	622	686
石川 遼	2	12.05	641	59.56	428	6.36.80	134	641
畑岡 進	2	11.70	711			5.52.70	295	711
柴田 智弘	D1	12.04	643	54.06	637	4.35.45	710	710
安井 誠一郎	H4 卒	12.23	606				0	606
三上 和樹	3	13.84	335	56.66	534	4.07.85	897	897
八柳 暁	4	12.41	573	63.32	307	6.34.47	141	573
佐藤 洋介	1					4.25.75	773	773
竹原 大	1	11.50	753	53.57	657	4.33.57	722	753
辻川 優祐	4	12.81	501	56.5	540	4.28.54	755	755
尾形 翔平	4	13.26	425	59.64	426	4.18.80	820	820
田中 悠貴	3	12.41	573	65.29	251	5.20.51	448	573
藤澤 萌人	3	14.15	291	63.59	299	4.16.20	838	838
南 共哉	3	11.73	705	53.61	656			705
畠山 真慈	4	11.54	744					744
保坂 佑斗	3	12.08	635	56.12	555	5.34.82	376	635
川口 亮平	D3	12.85	494	56.25	550	4.46.19	642	642
本間 大輔	2	12.19	614	57.08	518	5.26.19	419	614
増田 俊太郎	1					4.34.59	715	715
佐藤 基明	3	12.92	481	60.23	405	4.51.34	611	611
増村 巧	3	12.75	511	62.02	347	5.35.22	374	511
高橋 佳希	1	13.32	415			4.16.34	837	837
南雲 信之介	1			62.58	330	4.32.12	731	731
大野 慎也	1	13.04	461	58.59	462	4.34.08	719	719
杉山 祥太郎	4	14.01	311	61.58	361	4.43.64	658	658
碓井 将也	1			63.29	308	4.46.54	640	640

宝田 拓馬	3	13.02	464	61.85	352	4.53.90	596	596
菅原 大志	1			54.05	638	4.44.98	650	650
安食 雄太郎	1	13.78	344	64.66	268	5.00.96	555	555
進藤 克哉	1	12.78	506	60.27	404	4.56.19	582	582
植木 達矢	3	14.39	259	65.23	253	4.40.57	677	677
醍醐 賢輔	3	13.51	385	59.97	414	4.36.32	704	704
岡崎 和貴	3			60.38	400			400
北原 慶汰	1	13.62	368	63.12	313	4.47.64	633	633
荻原 大樹	1			60.02	413	4.51.62	609	609
吉羽 正太	2					5.05.66	528	528
富田 航	1	13.45	394	62.55	331	4.50.97	613	613
株 和教	1	14.93	193	70.42	129	5.01.22	553	553
中道 和輝	3	12.05	641					641
高橋 慧悟	1	13.14	444	60.93	382			444
金子 修平	3					4.36.85	701	701
奥 裕之	3	14.08	301			5.26.85	416	416
酒井 利晃	2	14.54	240	73.14	79			240
佐藤 泰介	2	14.26	276	63.45	303	4.50.06	619	619
杉浦 弘樹	2	12.50	556					556
浅見 恭子	1	14.15	291			6.35.03	140	291
中山 なつみ	3	14.22	282				0	282
工藤 知央	1							0
村松 純	3	15.47	136			5.07.70	517	517
宮間 志帆	1	15.46	137	68.44	172	5.05.34	530	530
及川 まりや	4					4.47.15	636	636
西村 亮祐	2	18.86		72.41	92	6.38.45	129	129
西井 大樹	2					5.19.28	454	454
真山 隆徳	S56 卒	15.47	136			5.43.82	334	334
井出 桃愛	1	16.46	55			5.52.41	296	296
金子 奈緒	2	15.64	120					120
榊原 真理子	1	17.88	0	83.58	0	6.10.31	224	224
石井 花織	3					6.15.56	205	205
鈴木 絢子	2	15.57	126	69.27	153			153
深渡 慎一郎	3							0
安部 瑛里奈	2							0
佐藤 源之	S55 卒							0
赤羽根 駿之介	1							0
新沼 啓	M1							0
下島 千歩	3							0
稲場 斉	S42 卒					5.55.46	283	283

齋藤 寛峻	3						0
村田 晃太郎	3						0
梶山 あずさ	1	16.43	57				57
山根 由経	3						0
宮崎 鉄男	S43 卒						0
塩谷 美菜子	1			77.01	28		28
佐々木 美沙子	3						0
星 まさみ	3						0

・フィールドの部

名前	学年	走幅跳	得点	走高跳	得点	最高得点
藤井 翼	4	6.31	655	1.60	465	655
岡部 大輝	2	6.52	703	1.80	628	703
安井 令	4	6.24	640	1.40	318	640
山田 健太郎	2	5.72	527	1.90	714	714
柳澤 邦彦	4	5.37	455	1.55	427	455
佐藤 裕貴	3	5.88	561	1.50	389	561
伊藤 亮輔	4	5.65	513	1.55	427	513
岩崎 辰哉	M2	6.22	635	1.60	465	635
向出 周太	3	5.40	462	1.40	318	462
千葉 優人	2	5.60	502	1.45	353	502
鈴木 義教	H19 卒	5.87	559			559
石川 遼	2	4.77	340	1.30	251	340
畑岡 進	2	5.30	441	1.40	318	441
柴田 智弘	D1	5.54	490	1.50	389	490
安井 誠一郎	H4 卒	5.92	570			570
三上 和樹	3	4.65	318	1.35	284	318
八柳 暁	4	5.25	432	1.35	284	432
佐藤 洋介	1	5.00	383	1.55	427	427
竹原 大	1	5.25	432	1.40	318	432
辻川 優祐	4	5.12	406	1.30	251	406
尾形 翔平	4	4.94	371	1.30	251	371
田中 悠貴	3	5.85	555	1.60	465	555
藤澤 萌人	3	4.90	364			364
南 共哉	3	5.13	408	1.40	318	408
畠山 真慈	4	5.19	420	1.40	318	420
保坂 佑斗	3	5.57	496	1.35	284	496
川口 亮平	D3	4.96	375	1.40	318	375
本間 大輔	2	5.46	474	1.45	353	474
増田 俊太郎	1			1.35	284	284

佐藤 基明	3	5.10	402	1.50	389	402
増村 巧	3	5.73	529	1.50	389	529
高橋 佳希	1	3.74	166			166
南雲 信之介	1	4.02	209	1.15	159	209
大野 慎也	1	4.40	273	1.35	284	284
杉山 祥太郎	4	4.41	275	1.25	219	275
碓井 将也	1	4.34	263	1.35	284	284
宝田 拓馬	3	4.60	309	1.35	284	309
菅原 大志	1	5.00	383			383
安食 雄太郎	1	5.08	398	1.20	188	398
進藤 克哉	1	4.47	285	1.35	284	285
植木 達矢	3	4.40	273	1.25	219	273
醍醐 賢輔	3	5.08	398	1.35	284	398
岡崎 和貴	3	4.65	318	1.50	389	389
北原 慶汰	1	3.75	167	1.25	219	219
荻原 大樹	1	4.05	214	0.00	0	214
吉羽 正太	2	4.79	343	1.25	219	343
富田 航	1	4.31	258	1.15	159	258
株 和教	1	3.83	179	1.25	219	219
中道 和輝	3					0
高橋 慧悟	1	4.45	282	1.35	284	284
金子 修平	3					0
奥 裕之	3	3.28	101			101
酒井 利晃	2	4.04	213			213
佐藤 泰介	2	3.51	132			132
杉浦 弘樹	2					0
浅見 恭子	1	4.40	273			273
中山 なつみ	3	4.40	273			273
工藤 知央	1	5.30	441	1.50	389	441
村松 純	3	2.62	27			27
宮間 志帆	1	2.81	45			45
及川 まりや	4					0
西村 亮祐	2	3.80	175	1.20	188	188
西井 大樹	2					0
真山 隆徳	S56 卒	3.15	84			84
井出 桃愛	1	3.55	138			138
金子 奈緒	2			1.25	219	219
榊原 真理子	1	2.95	61			61
石井 花織	3	2.65	30			30
鈴木 絢子	2	3.11	79			79

深渡 慎一郎	3	4.73	332			332
安部 瑛里奈	2					0
佐藤 源之	S55 卒					0
赤羽根 駿之介	1					0
新沼 啓	M1					0
下島 千歩	3					0
稲場 斉	S42 卒					0
齋藤 寛峻	3					0
村田 晃太郎	3					0
梶山 あずさ	1	3.14	83	0.00	0	83
山根 由経	3					0
宮崎 鉄男	S43 卒					0
塩谷 美菜子	1					0
佐々木 美沙子	3					0
星 まさみ	3					0

・投擲の部及び総得点

名前	学年	砲丸投	得点	円盤投	得点	最高得点	総得点
藤井 翼	4	9.70	468	28.39	433	468	1878
岡部 大輝	2	8.53	398	21.73	305	398	1843
安井 令	4	7.64	346	15.52	190	346	1729
山田 健太郎	2	6.83	298	16.94	216	298	1695
柳澤 邦彦	4	12.25	622	41.25	691	691	1664
佐藤 裕貴	3	8.30	385	23.45	338	385	1659
伊藤 亮輔	4	7.23	321	24.66	361	361	1641
岩崎 辰哉	M2	7.38	330	18.56	246	330	1585
向出 周太	3	8.02	368	19.90	271	368	1583
千葉 優人	2	6.94	304	21.73	305	305	1548
鈴木 義教	H19 卒	6.48	277			277	1522
石川 遼	2	9.72	469	33.81	540	540	1521
畑岡 進	2	7.94	363	12.33	133	363	1516
柴田 智弘	D1	6.63	286	17.46	225	286	1486
安井 誠一郎	H4 卒	6.90	302	18.83	251	302	1478
三上 和樹	3	6.18	260	14.67	175	260	1474
八柳 暁	4	7.90	361	28.77	441	441	1445
佐藤 洋介	1	5.93	245	12.15	130	245	1445
竹原 大	1	6.17	259	13.76	158	259	1444
辻川 優祐	4	6.39	272	15.30	186	272	1433
尾形 翔平	4	5.74	234	13.20	148	234	1426
田中 悠貴	3	6.73	292	10.05	94	292	1420
藤澤 萌人	3	5.17	201	16.70	211	211	1413

南 共哉	3	6.32	268	13.08	146	268	1381
畠山 真慈	4	5.30	209	16.52	208	209	1372
保坂 佑斗	3	5.71	232	12.19	130	232	1364
川口 亮平	D3	6.88	301	18.43	243	301	1318
本間 大輔	2	5.66	230	14.00	163	230	1317
増田 俊太郎	1	6.71	291	17.62	228	291	1290
佐藤 基明	3	6.24	263	12.07	128	263	1277
増村 巧	3	5.30	209	12.23	131	209	1249
高橋 佳希	1	5.09	197			197	1200
南雲 信之介	1	5.88	242			242	1183
大野 慎也	1	4.55	166	8.60	69	166	1168
杉山 祥太郎	4	5.44	217	13.46	153	217	1150
碓井 将也	1	5.49	220	13.95	162	220	1143
宝田 拓馬	3	5.75	235	17.26	222	235	1139
菅原 大志	1		0	10.19	96	96	1128
安食 雄太郎	1	4.61	169	10.02	93	169	1122
進藤 克哉	1	5.97	248	16.00	199	248	1115
植木 達矢	3	4.46	161	11.95	126	161	1111
醍醐 賢輔	3					0	1102
岡崎 和貴	3	6.81	297	13.65	156	297	1086
北原 慶汰	1	5.71	232	8.58	69	232	1085
荻原 大樹	1	5.97	248			248	1071
吉羽 正太	2	5.11	198	9.99	92	198	1069
富田 航	1	4.46	161	11.38	116	161	1032
株 和教	1	5.80	238	10.80	106	238	1010
中道 和輝	3	7.94	363	19.51	263	363	1004
高橋 慧悟	1	5.88	242	13.13	147	242	970
金子 修平	3			18.64	247	247	948
奥 裕之	3	8.42	392	23.92	347	392	908
酒井 利晃	2	9.34	447	15.99	198	447	899
佐藤 泰介	2	4.19	145	10.20	96	145	896
杉浦 弘樹	2	6.96	305	13.38	151	305	861
浅見 恭子	1	6.74	293	14.68	175	293	857
中山 なつみ	3	5.61	227			227	782
工藤 知央	1	6.95	305	22.60	322	322	763
村松 純	3	4.63	170	8.21	63	170	714
宮間 志帆	1	3.93	131			131	706
及川 まりや	4					0	636
西村 亮祐	2	6.88	301	17.36	224	301	619
西井 大樹	2	4.23	148			148	602

真山 隆徳	S56 卒	4.76	178			178	596
井出 桃愛	1	4.44	159			159	594
金子 奈緒	2	5.17	201			201	540
榊原 真理子	1	4.17	144			144	429
石井 花織	3	4.81	181	11.24	114	181	415
鈴木 絢子	2	4.37	155			155	388
深渡 慎一郎	3					0	332
安部 瑛里奈	2	7.37	330	21.76	306	330	330
佐藤 源之	S55 卒	7.30	325	17.90	233	325	325
赤羽根 駿之介	1	7.30	325			325	325
新沼 啓	M1	6.91	303	16.79	213	303	303
下島 千歩	3	6.62	286	14.96	180	286	286
稲場 斉	S42 卒					0	283
齋藤 寛峻	3	5.54	223	7.65	54	223	223
村田 晃太郎	3			16.05	200	200	200
梶山 あずさ	1			7.68	54	54	194
山根 由経	3	4.95	189	11.65	121	189	189
宮崎 鉄男	S43 卒	4.89	185			185	185
塩谷 美菜子	1	3.73	119			119	147
佐々木 美沙子	3	5.66	230			230	230
星 まさみ	3	5.66	230			230	230

★天皇賜杯第81回日本学生陸上競技対校選手権大会(9/9-12) 於 国立競技場

我が校からは5名が出場しました。結果及び出場選手からのコメントを紹介します。

種目	氏名(学年)	順位	記録
男子走高跳	山田 健太郎(2)	—	NM
男子円盤投	柳澤 邦彦(4)	—	NM
男子やり投	杉本 和志(M1)	29位	55m11
女子5000m	及川 まりや(4)	24位	16'48"88
女子10000m	鈴木 絢子(2)	30位	35'35"43

<全日本インカレを終えて>

及川まりや

東京、国立競技場で行われた全日本インカレに5000mで出場しました。国立競技場開催ならではの独特の雰囲気を肌で感じ、ぞくぞくするような大会4日間となりました。

近年、レベル向上の著しい大学女子長距離界にあって、参加標準記録もほぼ毎年引き上げられている5000mのレースは、ハイペース&激しい競り合いで、本当に刺激的なものでした。結果は16'48"88のシーズンベスト。不調のなか、なんとかシーズンベストでまとめられたことに安堵すると共に、全カレという大会の雰囲気にうまく乗せてもらえたからこそ、出せた記録だなど、振り返って思います。

とはいえ、昨年、熊本で「来年は全カレで自己新を出す」と心に決めていた目標を達成できなかったことは、死ぬほど悔しいです。今回の悔しさを後半シーズンへぶつけ、最後まで挑戦し続ける気持ちを忘れずに、日々の練習に取り組んでいきたいと思ひます。

応援ありがとうございました。

<健闘報告～日本学生陸上競技対校選手権大会～>

杉本和志

今年、9月9日から12日に開催された日本学生陸上競技対校選手権大会にやり投で出場する機会を頂きました。参加標準記録を上回っての出場ではありませんでしたし、結果も力を発揮することができず55m11と惨敗でしたが、良い経験をさせて頂きました。

やり投は初日に競技が行われ、東北大から出場する5人の中で最初に競技に臨みました。やはり大学生のトップレベルの選手が集う大会と言うだけあって身体の高い選手で溢れていました。高校生の時とは別の感覚で高校生と大学生の違いを改めて実感しました。場の空気に呑まれていたということはありませんでしたが、地に足が着いていなかったようにも感じます。本来であれば自分のベストを尽くすということに集中すべきところですが、自分の力が周りの選手に届いていないことを意識から取り除くことができませんでした。1投目のブロック足が曲がってしまうというミスから修正もできず、単調な投げになってしまいました。悔しい気持ちでいっぱいです。しかし、また来期に挑戦することが可能ですので、今度は標準記録を突破しての出場を勝ち取りたいと思ひます。そして自信を持って戦いたいと思ひます。

最後に応援してくださった方に感謝の気持ちをお伝えしたいと思ひます。ありがとうございました。そして選手の方は来期、ともに全カレに参加しましょう。

<全日本インカレを終えて>

柳澤邦彦

先日行われた日本学生陸上競技対校選手権大会では円盤投げに出場しました。去年のOB

通信や三秀では大きなことを言っていましたでしたが記録なしという結果でそれに関しては情けない気持ちでいっぱいです。

投げの内容は全般的に上半身が先行しターンが終わって投げの動作に入るときには身体が開いていたように感じました。1投目、2投目は上半身が先行したために円盤を引っ張ってしまい投げた円盤が左にそれ、枠の中に収まりきりませんでした。3投目は下半身が先行してターンを回ることができましたが、左足のブロックの力が足りず身体が前に出てしまいました。

学部生最後の年に全カレで結果を残せることができなかつたのは残念ですが、今年は東北大学から5人出場し、充実した4日間を過ごせました。どの種目もハイレベルで自分の種目以外を観戦していてもとても勉強になりました。

<日本インカレを終えて>

山田健太郎

私は東京国立競技場で行われた日本インカレに走高跳で出場しました。私にとって初めての全国大会は非常に厳しいものとなりました。自分の跳躍と他の選手の跳躍の差を思い知り、力不足を痛感しました。自分の中で悪くない跳躍もありましたが、結果としてNMだった悔しさを忘れず、心技体全てにおいて成長するよう妥協することなく怪我に気をつけて練習を積んでいきたいと思う次第です。応援して下さった方々にはこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

<全日本インカレを終えて>

鈴木絢子

東京国立競技場で行われた全日本インカレに10000mで出場してきました。10000mに出場したのは今年の東北インカレが初めてで、人生2回目の10000m出場の舞台がなんと全日本インカレという、我ながら無謀な挑戦でした。また今回、東北インカレでの女子10000m優勝という、C標準切りで得た全日本インカレの出場権であり、B標準やA標準を切って出場を果たしてくる全国の選手たちには遠く及ばないだろうと、出場することには不安と焦りばかりがありました。

それでも、自己ベストは出してこの大会を終えようと、今年の夏は今までの自分の陸上人生の中でも最も走りこみました。結果、タイムは35'35"43と、東北インカレで出したタイムである35'41"84は更新し、自己ベストを出すという目標は達成できました。しかし、走りこんだ割には思ったほどタイムが伸びなかったというのが正直な感想で、私にとっては不完全燃焼のまま全日本インカレが終わりました。

反省点としては、周りの速さに圧倒され、このスピードでは最後までたないかもしれないという不安から、強気にレースすることができなかつたということ、そして何より10000mのレース経験の乏しさが挙げられます。

ただ、反省も多くあったものの、全国大会のレースを経験できたことは大きな刺激になりました。どの種目もハイレベルなレース展開で興奮しましたし、何より競技場に溢れる熱気を、これまで自分が経験したどの大会よりも熱く感じました。あれだけ消極的だった私ですが、来年もまた絶対にここに来たい、来てみせる、という決意を新たに仙台へと帰ってきました。

今回、応援してくださったたくさんの方々に、心より感謝申し上げます。来年は標準記録を切り、勝負できるようにした上で出場できるよう、練習に励んでいきますので、今後とも応援よろしくお願い致します。

★「全レンヌを走る日」(10/14) 於フランス共和国レンヌ市

仙台市の国際姉妹都市であるフランス共和国レンヌ市において、10月14日に開催された「全レンヌを走る日」に、鈴木絢子(2)が仙台市から男女各一名の枠に選ばれ、参加してきました。ちなみに昨年の同大会には、及川まりや(4)が参加しています。

鈴木のコメントを紹介します。

「全レンヌを走る日」へ参加して

鈴木絢子

10月14日、私は仙台市と国際姉妹都市であるフランス共和国レンヌ市との国際姉妹都市交流の一環で、毎年レンヌ市で開催されているロードレース大会「全レンヌを走る日」の派遣選手として仙台市より選考していただき、海外でのロードレースという貴重な経験をさせていただきました。

日本から飛行機で11時間という遠距離の遠征は初めてでしたし、異国の地での調整練習や栄養管理などに不安もかなりありました。しかし、フランスの人々の歓迎は温かく、不安など忘れ、現地の文化や風習を楽しませていただきました。

現地入り4日後に迎えた5kmレースは、記録17分39秒と、タイム的には満足のいく結果ではありませんでしたが、日本人ではたった一人参加している私に対し、沿道から驚くほどの応援があり、レース自体は存分に楽しませていただきました。

ケニアやエチオピアなどアフリカ勢選手の速さには圧倒されてしまいましたが、その勢いを肌で感じられるようなハイレベルなレースに参加できたことは大きな刺激になりました。この経験を生かし、今後も練習に励み、結果を残していける選手を目指していきたいと思います。



★第30回全日本女子大学駅伝対校選手権大会(10/28) 於 仙台市

杜の都仙台を舞台に開催されました。この大会は、昨年度上位6位までに入賞したシード校、各地区を勝ち抜いた代表校、東北学連選抜(オープン参加)で争われます。

東北大学からは及川(4)、鈴木(2)、宮間(1)が東北学連選抜として選ばれていました。また、一緒に練習している宮城大学の村松(3)も同様に選ばれていました。当日は及川が1区、鈴木が3区、宮間が4区を走ることになりました。

出場選手からのコメントを紹介します。

<全日本大学女子駅伝を終えて>

及川まりや

10月28日、地元仙台で行われた全日本大学女子駅伝に、東北学連選抜チームとして出場しました。4年生が私一人ということもあり、昨年に引き続きチームの主将をつとめさせて頂きました。

4年生になって、3年連続の出場となったこの大会、個人としても結果を残したいと思っていましたが、今年は、昨年同様配置された1区で区間18位。タイムこそ昨年を上回りましたが、目標としていた、上位に絡んでいくようなレースをすることができず、個人的には非常に悔しさが残る大会となりました。

しかし、チームとしての総合結果は19位相当、2時間15分06秒の歴代最高記録を樹立することができました。併せて、全区間襷リレーを達成し、ほんとうの駅伝をできたこと

に、大きな喜びを感じます。昨年、繋がらなかった襷を握っていた本人から、「我がこのように嬉しい」とレース後に笑顔で言われたときには、1年越しに完成できた襷リレーの喜び、そして、襷の重みというものを改めて噛みしめました。

非常にレベルの高いメンバーが揃った今年、惜しくも正選手から外れましたが、本番、一番近くでサポートをしてくれた純に、お礼を言いたいです。モチベーションを保つのが難しい立場でも、明るく、チームのために尽くしてくれて、ほんとうにありがとう。

また、今回、チームの9人目のメンバーとして活躍してくれたマネージャー担当の真璃子にも、お礼を言いたいです。選抜チームのマネージャーは、エントリーから当日の動きに至るまでを采配する非常に重要な役目で、例年、学連の上級生が務めていた大変な仕事でした。その仕事を、1年生ながら滞りなく進めてくれたこと、裏方としてチームを支えてくれたことに感謝したいと思います。

3-4区を走った絢子、志帆の付添を引き受けてくれた愛里沙、美菜子はじめ、たくさんの方のおかげで成り立っている大会であること、そして、こうした環境の中で走れることの喜びを実感する大会でもありました。当日、大会運営に尽力して下さったすべてのみなさん、沿道で、またテレビの前で、惜しめない声援を送って下さったすべてのみなさんに感謝したいと思います。ほんとうにありがとうございました。

<全日本大学女子駅伝を終えて>

鈴木絢子

10/28に行われました第30回全日本大学女子駅伝にて、東北学連選抜チームの選手として3区を走らせていただきました。

昨年に引き続き、2回目の出場でしたが、今年は最長区間である3区を任され、そのプレッシャーは私にとって重いものでした。加えて、10月は遠征等で思うような練習が積めていなかったという不安もありました。

しかし、多くの人に励まされ、他の選手は気にせず、自分のベストを尽くせばいいのだと気持ちを切り替えてレースに臨むことができました。レース内容としては、前半から積極的に飛ばしたことで後半はかなり疲労してしまいましたが、沿道からの応援が励みになり、なんとか走りきることができました。本当にありがとうございました。

結果は区間17位と、決して誇れるような順位ではありませんが、現在の自分の実力は全て出し切った走りだったと思います。また今回、4区を走った志帆と東北大襷リレーが実現できて非常に嬉しかったですし、学連選抜チーム史上最高タイムだったということで、その一員として走れたということは大きな感動でした。

全日本女子駅伝に出場するにあたり、大会運営に尽力して下さった方々をはじめ、本当に多くの方々にご支援とご声援をいただきました。心から感謝申し上げます。この大会で得た経験を生かし、練習に励んでまいります。今後ともよろしく願いいたします。



三区を快走する鈴木(2)

<全日本大学女子駅伝結果報告>

宮間志帆

私は、10月28日、仙台市で行われた全日本大学女子駅伝に、東北学連選抜チームの4区(4.9km)で出場しました。まず、この大会で運営や応援、サポートをして下さった部員の皆様、遠方から応援に来て下さったOB・OGや関係者の方々に心から感謝申し上げます。

チームの結果は、全6区間で襷が渡り、学連選抜チームの最高記録を塗り替えることが出来ました。

個人としては、坂が少なく、定禅寺通の大歓声の中を駆け抜けることができる、まさにおいしい区間でしたので、楽しみながら走ることができました。また、絢子さんとの東北大学襷リレーが出来て嬉しかったです。初めての全国の舞台が仙台で、多くの方々に応援していただけて、大変感慨深い大会になりました。

その一方で、区間16位でチームの順位を上げることは出来ずに終わり、自分は力不足で、まだまだ全国大会に出場するに値しない選手だと痛感しました。この経験を糧に、今後も練習に精進して参りたいと思います。

本当にありがとうございました。今後とも応援よろしくお願ひいたします。

<全日本大学女子駅伝>

村松 純

昨年に続き、東北学連選抜に入ることができました。今年こそは選手として杜の都を走りたいと思っていましたが、自分の力不足でまた補欠という結果になりました。とても残念ではありましたが、選抜に入れたことで得たものも多くありました。

当日は2年連続で1区を走り、主将を務める及川まりやさんのサポートをしました。ラストスパートをかけ、2区の選手に襷を渡すと力を出し尽くして立てなくなるまりやさんを抱えながら、私は感動して思わず泣きそうになりました。また、間近でこのような走りを見ることができて嬉しかったです。さらに東北学連選抜史上最高のタイムで襷をつなぐことができたということで、そのようなチームに所属できたことをとても幸せに思います。

今年の全女を終えて、私は駅伝の良さを改めて認識しました。駅伝を通してそのチームの団結力は深まりますし、自分の役割というものもわかってくる素晴らしい競技だと思います。先輩方がずっと目標にしてきた、東北大学としてのチームで全女出場に向けて、これからもできることをしていきたいと思います。

最後になりましたが、この大会でお世話になりました学連のみなさん、応援して下さった補助員を含め部員のみなさん、OB・OGのみなさんにはとても感謝しています。今後ともどうぞ応援よろしくお願ひいたします。

★第67回宮城県駅伝 於 宮城(11/18)

11月18日に行われた第67回宮城県駅伝で東北大学Aチームが初優勝を飾りました。Aチームは最初から最後まで首位をキープし、2位の多賀城自衛隊Aチームに2分32秒差の大差をつけて全七区のうち、一区三上和樹(3)、三区山本悠平(3)、七区藤澤萌人(3)の三区間で区間賞をとる見事な優勝でした。

また、東北大学B、C、Dチームもそれぞれ11位、14位、22位に食い込み、東北大の存在感を見せつけました。

◎優勝 東北大学 A 2時間54分03秒

区	名前(学年)	記録(区間順位)
一区(6.5km)	三上和樹(3)	20'59(区間賞)
二区(6.7km)	石代剛之(4)	21'36(区間二位)
三区(5.9km)	山本悠平(3)	20'19(区間賞)
四区(8.4km)	菅野 均(4)	27'12(区間二位)

五区(10.1km)	深渡慎一郎(3)	31'17(区間五位)
六区(10.2km)	尾形翔平(4)	31'35(区間五位)
七区(6.9km)	藤澤萌人(3)	21'05(区間賞)

◎11位 東北大学B(南雲-北原-杉山-田辺-西井-碓井-角川) 3時間04分43秒

◎14位 東北大学C(大野-佐藤-富田-南-斎藤-工藤-宝田) 3時間05分58秒

◎22位 東北大学D(安食-醍醐-萩原-木村-大野-進藤-株) 3時間12分19秒

★秋季三秀総会のお知らせ

平成24年度秋季三秀総会を下記のように開催いたします。皆様ご多忙の折りとは存じますが、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時 12月22日(土) 15時～

場所 東北大学川内北キャンパス講義棟B200教室

★自己記録更新者一覧①

・800m

三上和樹(3) 1'56"05(日体大)

竹原大(1) 1'59"30(個人戦)

菅原大志(1) 2'02"38(〃)

・男子1500m

辻川優祐(4) 4'06"67(二十二代戦)

山根由経(3) 4'07"83(日体大)

・男子5000m

三上和樹(3) 15'21"13(日体大)

・男子10000m

深渡慎一郎(3) 31'44"69(個人戦)

高橋佳希(1) 31'50"87(〃)

・女子200m

中山なつみ(3) 26"43(個人戦)

・女子5000m

宮間志帆(1) 17'33"01(個人戦)

・女子10000m

鈴木絢子(2) 35'35"43(全日本IC)

・男子走幅跳

岡部大輝(2) 7m16(個人戦)

・男子十種競技

藤井翼(4) 5626点(個人戦)

・男子円盤投げ

石川遼(2) 35m11 (山形大競技会)

★今後の予定

12月22日(土) 秋季三秀総会

★編集後記

今回からOB通信の作成を任せられました千葉と申します。このOB通信の作成にあたっては、前回の担当者である保坂さんはじめ沢山の方のご協力を頂いてようやく完成させることができました。まだまだ至らない点はたくさんあると思いますが、今後このOB通信が、OBの皆様方にとってより分かりやすく意義のあるものとなるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願ひします。

文責 副務 千葉愛里沙